

6. 鮭鱒漁場付近の海況

進士 福太郎 (気象庁)

鮭鱒母船協議会から各船団で観測した水温や透明度の資料を1958年以降にいただいていますので、私達はこの水温の資料を表面、25m層、50m層、75m層に分け、表面と25m層は半旬ごとに、50m層と75m層は旬ごとに、1度柵目ごとの平均値をだして、漁場付近の水温を調べていますので、その概要を報告します。

25m層の各年の水温について、5月下旬(後半)、6月中旬(後半)、7月中旬(後半)の分布から5℃線の位置をみますと、

年	5月下旬	6月中旬	7月中旬
1958	51°N, 175°E付近	53°30'N, 168°E付近	50°N, 158°E付近
1959	51°30'N, 165°E付近	52°N, 163°30'E付近	59°N, 167°30'E付近
1960	漁場は5℃に達して いない。	54°30'N, 167°30'E付近	52°30'N, 161°E付近
1961	〃	53°30'N, 169°E付近	58°30'N, 167°30'E付近
1962	47°30'N, 164°E付近	49°30'E, 160°E付近	漁場は6℃以上にな っている。

のようになっています。(漁場だけの資料ですからおおよその位置になります。)

漁場が時期や年により異なりがちになりますので、1960年以後、東西、南北の定線(50°N, 160°~175°E; 45°~53°N, 167°E)をもおけ、年年の水温推移を調べています。

最近の概要を述べますと、

1960年には

東西の推移（50°N線）は次のとおりです。

表 面	25 m 層	50 m 層
6月中旬頃まで166°E付近から東側の水温が西側よりやや高い。	表面に似た推移をしている。	表面、25 m層とは異なり、166°E付近から東側が7月下旬になっても高い。
6月下旬から東西の水温の差なくなる。	〃 〃	
5月下旬と7月下旬の水温の差は6°~7°C。	左と同期間の水温の差は2°~4°C。	左と同期間の水温の差は1°~3°C。

南北の推移（167°E線）は

6月下旬頃から東よりの暖水（50°N付近が中心）により南北同時に昇温し、潮境は西に移っています。

このほか、この年はカムチャッカよりの沿岸水が目立ち、58°N, 172°E付近では、表面水温は1959年より高いが、25 m層と50 m層の水温は1959年より低めとなっています。

1961年には

東西の推移は次のとおりです。

表 面	25 m 層	50 m 層
1960年とは反対に166°E付近から西側の水温が東側よりやや高い。	表面に似た推移をしている。	表面、25 m層とは異なり、161°~165°E付近まで低温水でおおわれていたが、水温は1960年より高い。
7月上旬一時東西同温になったが、7月中旬には西側高にもどっている。	〃 〃	

表 面	25 m 層	50 m 層
5月下旬と7月中旬の水 温の差は3℃。	左と同期間の水 温の差は2℃。	左と同期間の水 温の差は1.5℃(168°E付 近)。

南北の推移は

6月下旬頃一時南北の水温の差は小さくなったが、7月上旬頃から南からの暖水が拡がり、南北の水温の差はまし、5月下旬より7月中旬までの表面における北方の水温の差は2.5℃、南方のそれは4℃程になっています。

この年は51°N 付近に6月中旬頃になっても低温水があり、7月に入っても暖水の張り出しが1960年程みられませんでした。

また、アリューシャン列島にそって西に向い暖水の大部分がアンドレアノフ島付近からベーリング海に入っています。

1962年の

東西の推移は次のとおりです。

表 面	25 m 層	50 m 層
166°E付近から東側の 水温が西側よりやや高い (西側の水温は1961 年の方が6月下旬頃ま で高く、その後は1962 年の方が高い)。 7月上旬頃から東西の 水温の差なくなる。	表面に似た推移をして いる。 〃	表面、25 m 層とは 異なり、5月中旬頃 には168°E、6月中 旬頃からは163°Eの 西側の水温が東側の 水温よりやや低い。 7月中旬頃になつて も東西に差がある。
5月中旬と7月下旬の 水温の差は6℃。 南北の推移は	左と同期間の水 温の差は2°~3℃。	左と同期間の水 温の差は1.5℃。

表面で、6月下旬頃一時南北の水溫の差は小さくなったが、その後はましており、50 m層では49°～51°Nが高くこの南と北側は低くなっています。

また、50 m層の水溫は51°N以北では1962年の方が高く、以南では1961年の方が高くなっています。

次に、漁期しけた1958年と北洋としてはおだやかであった1962年の水溫をくらべますと、1962年の方が漁期をとおし、平均して1℃近く高めになっており、また、1958年からの各年の平均水溫をくらべますと、大体ですが、1958年<1959年>1960年>1961年<1962年；1959年<1962年のようになり、三陸沖合の37°～42°N，147°～157°Eにおける夏期の平均表面水溫と反対の傾向をしています。

この5年間、漁場の水溫が漁期のはじめ高めであれば漁期のおわりまで、その傾向をとおしています。

鮭鱒漁場の水溫変動の大きな要因は、ジェット流の北偏南偏などの氣象変動によるように思われます。

7. 塩素量分布と漁況

広瀬 寛 (日魯漁業)

私は毎年北洋で母船に乗組み、船団の先航独航船部門を担当して、良好漁場探索に従事しておりますが、4船団に所属している母船先独、独航船の水溫水色透明度の資料を毎日毎日海図に記入致しますと、操業海域の海況は大体把握出来ます。

然し更に進んで北洋の水塊の分布を知るため、4母船にクヌーセンの塩分